

# 吹田市 公共交通維持・改善計画 事業内容・目標（案）説明資料

吹田市 土木部 総務交通室

# 吹田市公共交通維持・改善計画の基本理念・方針

確認資料

## 【吹田市 総合計画】

### 将来像

「**まちの魅力や強み**をさらに高めながら、確実に**将来世代**へつなぎ、だれもが**安心して**すこやかで**快適に暮らし続けられる**まち」

### 都市形成の政策目標

「道路、水道、下水道などの**適切な維持**や、公共交通の**利便性の向上**により、だれもが**安全・快適に暮らせる**まち」

### 交通環境の整備

- ・自転車を**安全・快適**に利用できる通行空間や**自転車駐車の確保と交通ルール**の啓発
- ・関係機関と連携した公共交通の**利便性・安全性の向上**

## 【吹田市 都市マスタープラン】

### 基本理念

「暮らしに**安心と快適性**をもたらす**定住のまちづくり**」  
「**誇りと愛着**の持てる**活力あるまちづくり**」

### 都市空間の将来像

1. 地域ごとの特徴ある**拠点市街地の形成**
2. **都市間・拠点市街地間のネットワークの形成**
3. 人と自然の**共生空間**の形成

## 【吹田市 立地適正化計画】

### 住宅及び都市機能増進施設の立地の適正化に関する基本的な方針

1. **快適で安心して暮らせる住みやすい居住環境**の構築
2. 地域ごとの**価値を高める拠点機能の充実**
3. **日常的な生活を支える施設のさらなる充実**

### 良好な公共交通ネットワーク等の形成

- ・**駅間のアクセス**等の一部地域におけるさらなる充実と**きめ細かな交通利便性の向上**や**道路の整備**等
- ・**良好なネットワーク**の形成

【市民の皆さまの想い】

### Key Word

まちの魅力、強み、誇り、愛着、活力、将来世代、安心、快適、利便性、安全性、定住、暮らし続けられる、住みやすい、拠点市街地形成、拠点機能、都市間・拠点市街地間、ネットワーク形成、既存公共交通サービス、地域資源の総動員、次世代・新技術、自転車駐車場、交通ルール、インフラの維持

## 【吹田市 地域公共交通総合連携計画】

### 基本方針

「公共交通をもっと**身近に**、もっと**便利に**、もっと**やさしく**」

### 基本方針の考え方

もっと身近に

- ① 地域間の**格差を縮小**
- ② **住む人もよし、訪れる人も良い**

もっと便利に

- ③ 吹田市の**発展**を支えている**インフラ**
- ④ 自動車と公共交通を**使い分けられる選択性**
- ⑤ 誰もが**身近に便利に利用できるユニバーサルデザイン**

もっとやさしく

- ⑥ 利用における**質的な向上**
- ⑦ **地球にやさしい**公共交通の利用促進

## 【公共交通を取り巻く環境の変化】

### 吹田市

- ・生産年齢人口減少による**公共交通利用者の減少**
- ・バスやタクシー等の**運転手不足・高齢化**の進展
- ・一部地域における**公共交通の不便な地域の存在**
- ・交通渋滞に伴う**バスの定時性の低下**
- ・**公共交通に対する意識のばらつき**

### 国の政策 -次世代交通システムの開発-

・Society5.0 ・スマートシティ ・自動運転技術 ・MaaS

### 令和2年法改正の背景・意義

「**地方公共団体が、公共交通事業者等と連携して、最新技術等も活用しつつ、既存の公共交通サービスの改善・充実に徹底するとともに、地域の輸送資源を総動員する取組を推進する必要がある**」

## 【吹田市における公共交通の役割と課題】

### 役割

- ① 市民生活における**モビリティの確保**
- ② 市民交流の**促進(市内・他都市相互)**
- ③ **多様な都市サービスとの連携**

### 課題

- ① 利便性向上による**バスの利用促進**
- ② **高齢者等のモビリティの確保**
- ③ **都市・地域拠点の機能向上**
- ④ **公共交通に関する情報提供の充実**
- ⑤ **交通ICTの活用**

## 基本理念(案)

『あらゆる都市モビリティが一体的に機能するとともに多様な手段と連携した将来に向けた公共交通』

## 基本方針(案)

- 基本方針1：公共交通サービスの**維持・充実**とPRによる**利用促進**
- 基本方針2：市民・利用者に寄り添う**利便性の高い公共交通ネットワークの形成**
- 基本方針3：共に支え、将来に向けた**持続可能な仕組みづくり**

## 基本理念・基本方針の検討に向けた考え

- ・一定の満足度があるサービスの**継続的な取組み**と市民や利用者**に上手にPR**することが必要
- ・現在の利用需要に応じた**公共交通ネットワークの構築**が必要
- ・市や運輸局などの行政、交通事業者、市民の関係者間が**一体的かつ各々の主体的な取組み**も促していくことが必要
- ・市民等が**利用することによる支えあい、共に公共交通を維持する**という意識醸成が必要
- ・国の交通政策「次世代交通システム」にも**積極的・前向きに捉える**ことが必要

# 吹田市公共交通維持・改善計画の事業・目標（案）

基本理念		目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8		
あらゆる都市モビリティが一体的に機能するとともに 多様な手段と連携した将来に向けた公共交通		鉄道の 利用者 数の 向上	バスの 利用者 数の 向上	市内 外 の 乗 客 の 転 入 上	公共 交通 ネッ ト ワ ー ク の 構 築	交通 結 節 点 の 機 能 の 向 上	利用 環 境 の 快 適 性 の 向 上	外 出 頻 度 の 増 加	公 共 交 通 の 満 足 度 の 向 上		
課題	① 利便性向上による バスの利用促進	基本方針1 公共交通サービスの 維持・充実と PRIによる利用促進	事業1 公共交通サービスの維持・向上	◎	◎	○			◎	○	◎
			事業2 運行情報の提供	○	○	○				○	◎
			事業3 利用パターンの提案	○	○	○				◎	◎
			事業4 安全な公共交通事業の推進	○	○	○				○	◎
	② 高齢者等の モビリティの確保	基本方針2 市民・利用者に寄り添う 利便性の高い公共交通 ネットワークの形成	事業5 バス路線の見直し	○	◎	○	◎			○	◎
			事業6 交通結節点の機能向上	○	○	○		◎	○	○	○
			事業7 地域コミュニティ交通の創出	○	○		◎			○	○
	③ 都市・地域拠点の 機能向上	基本方針3 共に支え、将来に向けた 持続可能な仕組みづくり	事業8 公共交通の魅力の発信	○	○						○
			事業9 担い手の確保				○				
	④ 公共交通に関する 情報提供の充実		事業10 次世代交通システムの積極導入	○	○	○				○	○
⑤ 交通ICTの活用											

◎直接的に関係する事業目標 ○:間接的に関係する事業目標

# 事業内容（案）－ 事業1～2 －

## 4-2 事業内容・事業主体

### 4-2-1 公共交通サービスの維持・充実とPRによる利用促進

#### (1) 事業1：公共交通サービスの維持・向上

誰もが快適で利用しやすい環境を作り、利用者の増加と利用者の満足度の向上につなげていきます。

(市、交) ノンステップバス車両の導入等によるバリアフリー化を推進します。

(市、交) これまで交通事業者各社で実施されている「利便性向上、良好な乗車環境確保等に向けた取組み」を今後も維持・継続していきます。鉄道駅舎の可動式ホーム柵の設置や誘導ブロック及び多機能トイレ等の設置等のバリアフリー化の推進により利便性、安全性の維持・向上を図ります。

(市、交) 屋根、ベンチ等の設置によるバス停環境の改善により、利便性の向上を図ります。

市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
◎	◎	◎	◎		○



万博記念公園駅



御堂筋線 江坂駅

可動式ホーム柵



床面が30cm程度と低く、出入口の段差をなくしたバスで、車いす利用時はスロープを使用し、円滑に乗降できるようになっています

低床バス（ワンステップバス、ノンステップバス）

#### (2) 事業2：運行情報の提供

路線バスについては利用者への分かりやすい情報提供が課題となっています。多様な媒体を通じて運行情報等を提供し、利用者の満足度を高めていきます。

(市) 広報誌や公共交通マップによる情報提供を今後も継続していきます。

(交) リアルタイムなバス運行情報がわかる『接近情報検索』を今後も継続していきます。

(市) コミュニティバスにデジタルサイネージを導入し、利用者に向けたタイムリーな情報提供ツールとして活用します。また、広告等のデジタル化でペーパーレスによる環境負荷低減に寄与します。

市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
◎	◎	◎	◎		

#### 『吹田市公共交通マップ』



#### 阪急バス：『接近情報検索』



<https://www.hankyu-bus.jp/busstate>

#### 『デジタルサイネージ導入例』



# 事業内容（案） — 事業3～4 —

## (3) 事業3：利用パターンの提案

高齢化社会において、公共交通は重要な移動手段の一つです。一方で、公共交通を利用していただくことが事業経営の維持につながります。

この事業では高齢者等の外出のきっかけになるような公共交通の料金割引サービスや利用助成制度等の利用誘導策による利用パターンを提案し、公共交通の利用促進を図っていきます。

(市、交) はんきゅうグランドパス 65 等や大阪モノレール 1day チケットのようなサービスや乗換えセット割引等の導入を検討します。

(市、交) 将来需要の見込まれる学生（小・中学生）に向けた運賃補助を検討します。

市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
◎	◎	◎	◎		○

『吹田市内交通事業者のサービス例』

大阪モノレール全線 乗り放題!!  
1day 8700円 8300円

はんしんグランドパス 65  
2013.06.09

『学生に向けたサービス事例』

夏休みどこでもバス  
小学生限定!

奈良交通とエスシーバスの「路線バス」が期間中 乗り放題! 全線フリー定期券!

小学生 2,500円

奈良交通株式会社：『夏休みどこでもバス』  
[https://www.atpress.ne.jp/releases/266600/att\\_266600\\_1.pdf](https://www.atpress.ne.jp/releases/266600/att_266600_1.pdf)

## (4) 事業4：安全な公共交通事業の推進

公共交通に関する安全運転等に関する取組みは、各事業者によって多種多様に実施されています。それらの情報を利用者にPRし、安全性・快適性を実感していただくことで、利便性の向上や満足度の向上を図っていきます。

(交) これまで交通事業者各社で実施されている「安全運転及び経営改善に関する取組み」を今後も継続していきます。

(市) 市のHPに各社の取組みの掲載といったPRによる協力・連携を行います。

市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
○	◎	◎	◎		

先進安全自動車 (ASV) の導入  
左リサイドビューカメラの導入  
アンダーミラーの大型化

阪急バス『安全報告書 2020』

阪急バスのノリセツ

阪急バス『阪急バスのノリセツ』  
<https://www.hankyubus.co.jp/rosen/guide/>

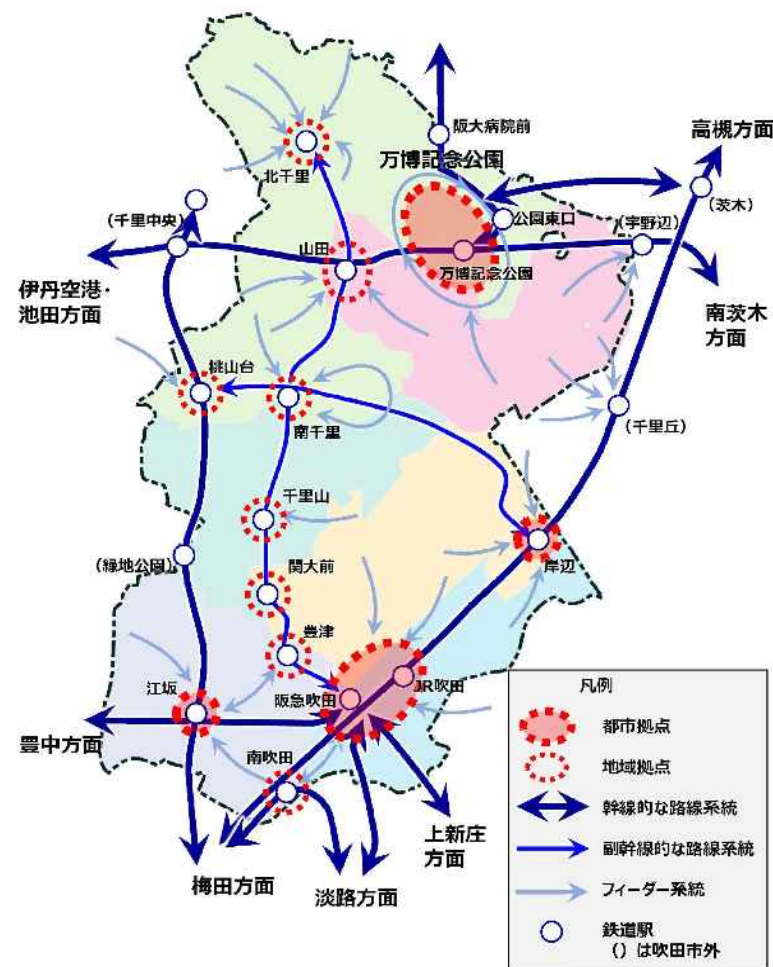
# 事業内容（案） — 事業5～6 —

## 4-2-2 市民・利用者に寄り添う利便性の高い公共交通ネットワークの形成

### (1) 事業5：バス路線の見直し

路線バスは、市内の移動手段を担っており、バス路線を充実させることでより良いサービスの提供が期待できます。一方でバス事業者は担い手不足等の問題を抱えます。様々な条件を考慮しながら、適切に路線を見直し、公共交通の利用者数や満足度の維持向上を図っていきます。

(市、交) 交通需要と供給のバランス、都市計画道路の計画に合わせた将来の公共交通ネットワークの形成と拠点の整備に合わせた効率的なバス路線運行の改善を図ります。



市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
○		◎			

### (2) 事業6：交通結節点の機能向上

複数の交通手段が集まる交通結節点の機能向上を図ることで、人の往来の増加が期待できます。

(市) 主要鉄道駅等におけるアクセス環境の充実を図るために、自転車駐車場整備を推進します。また、シェアサイクルの拡充を図ります。

例) 岸辺自転車駐車場整備事業、シェアサイクル実証実験中

(市) 主に鉄道駅にある市営自転車駐車場の利便性向上に向け、空き状況を発信します。

(市、交) 江坂駅へのエレベーター設置といった鉄道駅、バス停留所及びタクシー乗降場までの相互の乗換え動線のバリアフリー化を推進します。

(市、交) 乗り継ぎ案内情報の充実を図ります。



市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
◎	○	○	○		○

**実証実験期間**  
令和3年(2021年)1月15日(金)から  
令和6年(2024年)3月31日(日)まで

**実施事業者**  
実験実施主体：吹田市  
運営事業者：OpenStreet株式会社  
シェアサイクル名称：HELLO CYCLING (ハローサイクリング)  
吹田市のサイクルポート

吹田市『吹田市シェアサイクル実証実験』  
[https://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-doboku/somukoutu/\\_106466.html](https://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-doboku/somukoutu/_106466.html)



『HELLO CYCLING』 <https://hellohelloworld.jp/>



駅前広場の案内サイン・バリアフリー化の例

# 事業内容（案） — 事業7～8 —

## (3) 事業7：地域コミュニティ交通の創出

これまでの公共交通は、鉄道、バス、タクシーが中心でしたが、高齢化社会では、よりきめ細やかな移動手段の確保が課題となります。そのため、市や交通事業者が行う従来の方法では対応できないのが現状です。

きめ細やかな移動を確保するためには、地域の方、市、交通事業者が協力して地域に寄り添うモビリティを導入することが重要です。

(市、交、市民)バス・タクシーのサービス提供が困難な地域において、地域主体による新たな交通手段の導入のしくみを検討します。

市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
○		○	○	◎	○

### 兵庫県・豊岡市『地域主体公共交通「チクタク」』

「地域の地域による地域のための公共交通」として開始 — 「チクタク」 市町村運営有償運送・交通空白輸送

#### 導入概要

「イナカー」の存続基準(利用率1人/便)以下の路線の平成22年度末の廃止通知を受け、該当する地域から、市が定めた地域主体の公共交通支援制度の活用(申し出)があり、地域の代表者と共に「地域の地域による地域のための公共交通」を検討し市から運輸局へ相談。5カ月間の試験運行を行い、平成23年4月から地域組織による本格運行を開始。利用者は地域住民(要会員登録)で、運転者はボランティア(最多地区で23名)、運行管理者や事務員も地域で確保し、運行詳細(曜日/時間/停留所)も地域で決定する。基本は予約制で決まったルートを実行するが、病院やコンビニ・スーパーなど住民の利用実態に即した場所に停留所を設置し、可能な限り自宅まで送迎するなど、ドアツードアに近いサービスを実現したことで、「イナカー」よりも利用者は増え、市の財政負担も減少した。



運行団体	地元組織4団体
運行方法	路線を定めた運行(一部、路線を柔軟に運行)
運行本数	6路線7系統、週3日運行
予約の有無	利用日の前日19時までに予約
運行車両	市公用車4台を無料貸与
料金	100～200円/回
委託費用(運転者)	3,000円/日
委託費用(事務費)	2万円/月
乗車人数(回数)	延べ利用者数は3,138人/年(H28年度)

#### 『自家用有償旅客運送のはじめかた』

[https://www.town.nakai.kanagawa.jp/div/kikaku/pdf/seikatu\\_kotu/26-04\\_sankousiryoku.pdf](https://www.town.nakai.kanagawa.jp/div/kikaku/pdf/seikatu_kotu/26-04_sankousiryoku.pdf)

#### (利用者の声)

- これまで家族や知人に気兼ねしながら送迎を頼んでいたのがありがたい。
- 顔も分かるので安心できる。
- 運転手も乗客も顔見知り、車内での会話がはずみ、交流の場にもなっている。
- 雨や雪の時は自分で運転するのが不安だったが、チクタクだと安心できる。
- 外出する機会が増えた。



#### (運転手の声)

- チクタクのおかげで、1人で外出できるようになった等、地域の人々の喜んでいる声を聞けてうれしい。
- 地域のためになっているやりがいを感じる。
- もっと多くの人に利用してもらえようしていきたい。



## 4-2-3 共に支え、将来に向けた持続可能な仕組みづくり

### (1) 事業8：公共交通の魅力の発信

公共交通は、自家用車と比較すると、維持管理コストが安価な上に地球環境にやさしい移動手段といえます。また歩く機会が増加し、運動不足の解消や健康づくりに役立つ等沢山の魅力を有しています。こうした公共交通の多面的な魅力について、イベントや啓発活動等の情報発信、教育を通じた魅力の周知等を行い、利用者満足度の向上や利用者数の向上を図っていきます。

(交) これまで交通事業者各社で実施されている「Webサイト(例：阪急未来線)、イベント開催、ファンクラブ、啓発グッズ制作」を今後も継続していきます。

(市) 教育機関との連携を図り、モビリティ・マネジメント教育を推進します。

市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
○	◎	◎	○	○	○

### 『学校教育モビリティ・マネジメント』

- ・平成26年度より小学生・中学生を対象に学校教育モビリティ・マネジメントを実施
- ・令和元年度には小学校5校(対象生徒592名)、中学校1校(対象生徒290名)に授業を実施
- ・小学生に対しては、岐阜乗合自動車協会の協力により、実際のバス車両を用いたバスの乗り方や、乗車時のマナーについて講義を実施
- ・中学生に対しては、地元コミュニティバス運営協議会会長を講師として招き、協議会活動の内容や、地域住民の一員として自分の役割を考える講義を実施



岐阜県・岐阜市『令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要』  
<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/hyoka/pdf/jiko/R1/11gifushi.pdf>

# 事業内容（案） — 事業9～10 —

## （2）事業9：担い手の確保

少子化に伴う労働者の減少を背景に、運転手等の担い手が不足していることは、路線バスの維持や新規路線の開設において課題となっています。その課題解消に向け、担い手確保のための取組みの継続やその支援を推進します。

（交）これまで交通事業者各社で実施されている「ダイバーシティや人材育成、技術継承等」を今後も継続していきます。

（市）市のHPに各社の取組みの掲載といったPR等による協力・連携を行います。

市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
○	◎	◎	◎		



## （3）事業10：次世代交通システムの積極導入

公共交通を取り巻く環境は、情報通信技術の進歩や自動運転技術の向上などにより大きな変化をもたらされつつあります。こうした環境の変化を的確にとらえ、高齢者等の外出頻度の増加や利用者数の向上を図るため、次世代の公共交通システムの積極的な導入について調査・検討を行います。

（交）これまで交通事業者各社で実施されている「MaaS ※1、自動運転 ※2 等の取組み」を今後も継続していきます。

（市）市のHPに取組みの掲載、観光部署との協力・連携を行います。



市	鉄道	バス	タクシー	市民	その他企業等
○	◎	◎	◎	○	○

※1MaaS (Mobility as a Service)：関西に主要路線を持つ7社で「関西MaaS検討会」が組織され、共同検討、開発に関する取組みが行われています。（参加企業：「Osaka Metro（大阪市高速電気軌道（株）」、「近畿日本鉄道（株）」、「京阪電車（京阪ホールディングス（株）」、「南海電気鉄道（株）」、「JR西日本（西日本旅客鉄道（株）」、「阪急電鉄（株）」、「阪神電気鉄道（株）」）

※2自動運転：各社で過去に社会実験が行われています。（「京阪電車（京阪ホールディングス（株）」、「阪急バス（株）」、「JR西日本（西日本旅客鉄道（株）」、「Osaka Metro（大阪市高速電気軌道（株）」）



# 目標・評価指標（案）－ 目標1～4 －

基本理念と基本方針に基づき、吹田市公共交通維持・改善計画の「目標」と関連する「評価指標」を設定します。評価指標は、指標ごとに目標値を設定し、毎年のモニタリングを通じて、達成状況を評価します。

## 目標1：鉄道の利用者数の向上

- ・鉄道の年間利用者数を指標とします。
- ・現況値は、2020年からの新型コロナウイルス感染症による利用者減少の状況を踏まえ、2019年度の統計値とし、5年目標値は現況以上まで回復させることを想定しています。
- ・10年目の目標値は調整中。
- ・毎年の統計値により評価します。

現況（2019年度）		目標（2026年度）	
鉄道利用者数	14,297万人/年	鉄道利用者数	現状以上 万人/年

※評価年の前年度の年間利用者数を指標とする。（年度中に年間利用者数が確定しないため）

目標（2031年度）	
鉄道利用者数	調整中 万人/年

## 目標2：バスの利用者数の向上

- ・バスの年間利用者数を指標とします。
- ・現況値は、2020年からの新型コロナウイルス感染症による利用者減少の状況を踏まえ、2019年度の統計値とし、5年目標値は現況以上まで回復させることを想定しています。
- ・10年目の目標値は整理中。
- ・毎年の統計値により評価します。

現況（2019年度）		目標（2026年度）	
バス利用者数	2,168万人/年	バス利用者数	現状以上 万人/年

※評価年の前年度の年間利用者数を指標とする。（年度中に年間利用者数が確定しないため）

目標（2031年度）	
バス利用者数	整理中 万人/年

## 目標3：市内外の転入転出者数の向上

- ・吹田市の年間の転入転出者数を指標とします。
- ・現況値は、2020年度の統計値とし、目標値は整理中。
- ・毎年の統計値により評価します。

現況（2020年度）		目標（2026年度）	
転入者数	22,214人/年	転入者数	整理中 人/年
転出者数	19,705人/年	転出者数	整理中 人/年

※評価年の前年度の転入者数を指標とする。（年度中に転入者数が確定しないため）

目標（2031年度）	
転入者数	整理中 人/年
転出者数	整理中 人/年

## 目標4：公共交通ネットワークの構築

- ・公共交通による人口カバー率を指標とします。
- ・現況値は鉄道駅・バス停勢圏図から算出した人口カバー率とし、5年目（見直し）目標および10年目目標は現状維持とします。
- ・毎年人口カバー率を確認し、評価します。

現況（2020年度）		目標（2026年度）	
公共交通による人口カバー率	整理中 %	公共交通による人口カバー率	現状維持 %

目標（2031年度）	
公共交通による人口カバー率	現状維持 %

# 目標・評価指標（案）－ 目標5～8 －

## 目標5：交通結節点の機能の向上

- ・市内の自転車駐車場の利用率を指標とします。
- ・現況値および目標値は整理中。
- ・毎年の実績値により評価します。

現況（2021年度）		目標（2026年度）	
自転車駐車場利用率	整理中 %	自転車駐車場利用率	整理中 %

※評価年の前年度の自転車駐車場利用率を指標とする。（年度中に自転車駐車場利用率が確定しないため）

目標（2031年度）	
自転車駐車場利用率	整理中 %

## 目標6：利用環境の快適性の向上

- ・駅からバス停までの乗換え動線のバリアフリー整備箇所数、バス停環境整備箇所数を指標とします。
- ・現況値は、乗換え動線のバリアフリー整備箇所数、バス事業者へのヒヤリングによるバス停環境整備箇所数とします。
- ・目標値は整理中。
- ・毎年の実績値により評価します。

現況（2021年度）		目標（2026年度）	
乗換え動線のバリアフリー整備箇所数	21箇所	乗換え動線のバリアフリー整備箇所数	整理中 箇所以上
バス停環境整備箇所数	138箇所	バス停環境整備箇所数	整理中 箇所以上

目標（2031年度）	
乗換え動線のバリアフリー整備箇所数	整理中 箇所以上
バス停環境整備箇所数	整理中 箇所以上

## 目標7：公共交通による外出頻度の増加

- ・市民の外出頻度・公共交通の分担率を指標とします。
- ・外出頻度の現況値は、令和元年度に実施した基礎調査結果とし、毎年のアンケート調査の実施により評価します。
- ・目標値は整理中。
- ・公共交通の分担率はパーソントリップ調査による整理を想定し、評価方法および目標値は整理中。

現況（2019年度）		目標（2026年度）	
外出頻度	60%	外出頻度	整理中 %
公共交通の分担率	整理中 %	公共交通の分担率	整理中 %

※パーソントリップ調査による整理を想定

目標（2031年度）	
外出頻度	整理中 %
公共交通の分担率	整理中 %

## 目標8：公共交通の満足度

- ・市民の公共交通に対する満足度を指標とします。
- ・現況値は、令和元年度に実施した基礎調査結果とします。
- ・目標値については整理中。
- ・毎年のアンケート調査の実施により評価します。

現況（2019年度）		目標（2026年度）	
公共交通の満足度	42%	公共交通の満足度	整理中 %以上

目標（2031年度）	
公共交通の満足度	整理中 %以上

# 事業メニュースケジュール（案）

➡：継続   
 ➡：新規   
 ➡：見直し後  
 見直し 5年    10年

事業内容		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
事業1	車両のバリアフリー化	継続									
	交通事業者各社の利便性向上、良好な乗車環境確保等に向けた取り組み	継続									
	バス停環境の改善	検討・協議・実施									
事業2	広報誌、公共交通マップによる情報提供	継続									
	リアルタイムな運行情報提供 近接情報検索の継続	継続									
	コミュニティバスへのデジタルサイネージの導入	検討・導入	実施								
事業3	高齢者自動車運転免許証の返納者向けのサービス	検討・導入	実施								
	学生（小・中学生）に向けた運賃補助	検討・導入	実施								
	交通事業者各社の安全運転等に関する取り組み	継続									
事業4	交通事業者各社の取り組みを吹田市HPに掲載	実施（市の協力PR）									
	交通需要と供給のバランスに応じた運行の検討	検討・導入	実施								
事業5	将来の公共交通ネットワークの形成及び拠点整備に合わせたバス路線の見直し（都計道、区画整理に合わせた路線検討）	継続									
	自転車駐車場の整備推進	継続									
事業6	シェアサイクルの拡充	検討・導入	実施								
	自転車駐車場情報の空き状況の発信	継続的に検討を行い、調整ができた時点で実施									
	乗換え動線のバリアフリー化	継続									
	乗継ぎ案内情報の充実	継続的に検討を行い、調整ができた時点で実施									
事業7	地域主体の交通手段の導入のしくみ検討	導入スキーム検討		状況を踏まえ、継続的に導入検討							
事業8	Webサイト、イベント開催、ファンクラブ、啓発グッズ制作	継続									
	教育機関との連携（モビリティマネジメント）	継続的に検討を行い、調整ができた時点で実施									
事業9	各企業における人材育成、技術継承等の取り組みの継続	継続									
	各事業者の取り組みを吹田市HPに掲載	実施（市の協力PR）									
事業10	交通事業者各社のMaas、自動運転等の取り組みの継続	継続									
	各事業者の取り組みを吹田市HPに掲載、観光部局との協力・連携	実施									